協議事項51

令和６年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた今後の取組みについて

令和６年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた取組みについて、協議事項として以下のとおり提案する。

令和７年２月12日提出

神戸市教育委員会事務局
事務局長　　高田　純

１．令和６年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた取組みについて

（１）調査結果を踏まえた考察

○　正答率は、全体的には全国と同水準（中３数学は良好）

○　小・中学校ともに、基礎学力の定着に課題が見られる児童生徒が一定数存在

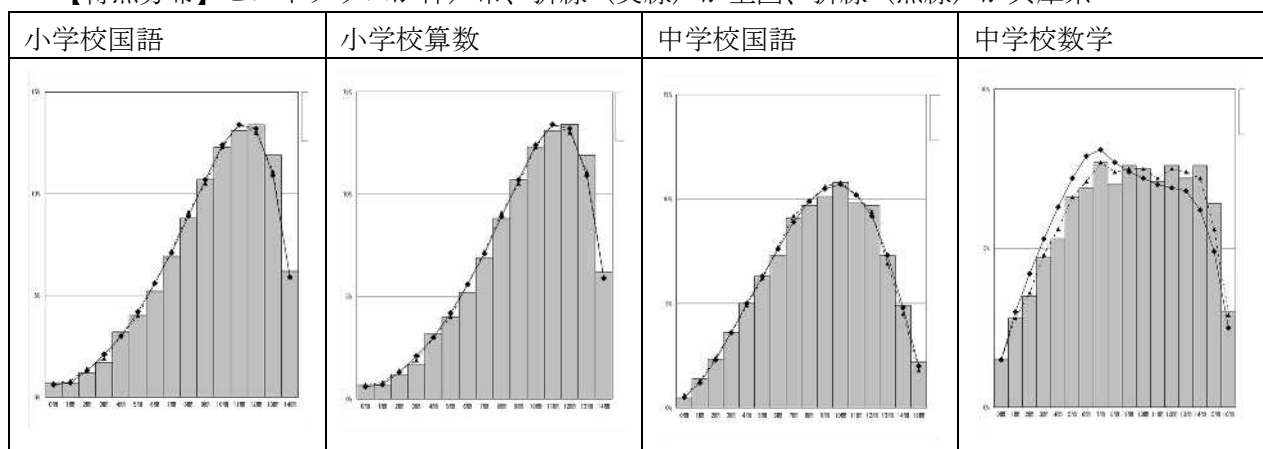
○　学校ごとの児童生徒の平均正答率を比較した場合に、学校間の学力差が見られる。

○　小・中学校共に、「思考・判断・表現」の設問で正答率が低い傾向があり、中学校はどの教科も記述式の設問で無回答率が全国平均よりも高い傾向が見られた。（参考①）

○　主体的対話的で深い学びに関する質問に肯定的に回答している児童生徒は、正答率が高い傾向が見られる。（参考②）

【平均正答率】

	教科	R６			参考（R５）
		本市	全国	比較	全国比較
小学校６年生	国語	68	67.7	＋0.3	＋1.8
	算数	64	63.4	＋0.6	＋1.5
中学校３年生	国語	58	58.1	－0.1	－1.8
	数学	55	52.5	＋2.5	＋1.0

【得点分布】ヒストグラムが神戸市、折線（実線）が全国、折線（点線）が兵庫県

（２）令和６年度の学力向上に向けた全体的な取組

①多様な児童生徒の学習状況に柔軟に対応するための支援体制の整備

○ 学習用パソコンの利用促進

・デジタルドリルの操作体験や有効な活用事例を学ぶ研修会を延べ９回実施

・デジタル教科書のコンテンツの利用方法を、各教科等の悉皆研修会で周知

○ 学習指導員の配置と放課後学習の実施

・学習指導員を全校に配置（小学校 163 校、中学校 84 校（分校を含む））

・その内、10 月末時点で小学校 138 校、中学校（分校を含む）62 校が放課後学習を実施

○ 教科担任制の導入

・令和４年度から全ての小学校の高学年で導入

・令和６年度は半数以上の小学校において、専門性の高い教科を中心に、３・４年生でも実施

○ 家庭学習の充実

・「生きる力」を育成するため、家庭や地域での学びが主体的なものになるよう、目的意識と学ぶ楽しさを重視した家庭学習「じぶん学習」を推進

・各校で「家庭学習（じぶん学習）の手引き」を作成し、その趣旨や具体的な学び方について児童生徒および保護者へ発信

②「個別最適な学びと協働的な学びの充実」の視点での授業改善

○全市研修会の開催

・研究指定校事業で得た成果を踏まえて全市研修会を実施（参考③）

・市内全ての小中学校の管理職に対し、神戸市が目指す授業のビジョンを伝達

・各校で授業改善を推進する教員に、授業づくりや校内研修の手法を具体的に伝達

○教員アンケートの実施

・全市小中学校の教員を対象にアンケートを実施（参考④）

・授業における「個別最適な学びと協働的な学びの充実」の視点を周知

・授業改善の取組状況を把握

○各種研修活動

・各校の校内研修、法定研修の教科指導研修、実践研修グループの研究授業等で指導助言

○授業パッケージ

・小中学校の全教科で、授業研究に活用できる学習指導案と教材のパッケージを作成し配布

・各校で、状況に合わせたアレンジをして実施

③「個別最適な学びと協働的な学びの充実」の考え方にもとづく実践研究

○研究指定校事業

・考え方を授業に実装するための実践的な授業研究と事例の収集（参考⑤）

○学力向上推進委員会

・専門的な見地からの助言と学力調査の分析（参考⑥）

○先進的な取組を行っている地域の事例研究（参考⑦）

・子どもに委ねる学び（石川県加賀市）

・単元内自由進度学習（愛知県　東浦町立緒川小学校）

・情報活用能力の育成（愛知県　春日井市立藤山台中学校）

・午前５時間 40 分授業（東京都目黒区）

（３）学力向上に向けた今後の取組

①神戸市全校の授業改善の進捗状況の把握と助言

・学力調査で課題が明らかになった領域や分野の授業づくりに役立つアイデア例を作成し、全校に配布（参考⑧）

・各教科等における授業づくりの考え方を示した教員向けリーフレットを作成し、全校に配布（参考⑨）

・令和７年度は市内の全小中学校を訪問し、授業改善の進捗状況を把握

・校長との面談等を通し、必要な助言を実施

②神戸市学力・学習状況調査の CBT 化

・令和７年度より、神戸市学力・学習状況調査を CBT に変更

・神戸市の児童生徒の学力上の課題や改善状況を柔軟かつ精緻に評価

・OECD 生徒の学習到達度調査（PISA）や全国学力・学習状況調査の CBT と同様、動画や音声を使って出題される問題に対応

③研究指定校事業

・授業改善の研修拠点となる推進校を設置し、全市に展開

・「探究」「柔軟な教育課程」「生成 AI の授業における利活用」等、次期学習指導要領で取り上げられる可能性があるトピックについて先行研究を行う研究協力校の設置を検討

２．令和７年度全国学力・学習状況調査への参加

〇実施概要

①実施日　・令和７年４月 17 日（木）

②対　象　・小学校第６学年　／　中学校第３学年

③内　容　・教科の調査　　　：小学校：国語・算数・理科　／　中学校：国語・数学・理科
　　　　　　　　　　　　　　　中学校理科のみ CBT 調査

　　　　　・児童生徒質問調査：全小中学校　オンライン方式にて実施

　　　　　・学校質問調査　　：学校長が回答

参考資料①

令和6年度　全国学習・学力状況

（回答率40%以下もしくは無回答率20%以上のみ抜粋）

	問題番号	問題の概要	出題の趣旨	評価の観点		問題形式			正答率（%）		無解答率（%）	
				知識・技能	思考・判断・表現	選択式	短答式	記述式	貴教育委員会	全国（公立）	貴教育委員会	全国（公立）
小学校算数	3（3）	直径２２ｃｍのボールがぴったり入る箱の体積を求める式を書く	球の直径の長さと立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうかをみる		○		○		36.8	36.5	10.0	9.8
	4（3）	家から学校までの道のりが等しく、かかった時間が異なる二人の速さについて、どちらが速いかを判断し、そのわけを書く	道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる		○			○	31.3	31.0	2.7	2.4
中学校国語	２一	本文中の図の役割を説明したものとして適切なものを選択する	文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができるかどうかをみる		○	○			35.2	36.3	0.4	0.5
中学校数学	6（2）	正三角形の各頂点に〇を、各辺に□をかいた図において、□に入る整数の和が〇に入れた整数の和の２倍になることの説明を完成する	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる		○			○	38.8	35.9	23.0	23.5
	6（3）	正四面体の各頂点に〇を、各辺に□をかいた図において、〇に入れた整数の和と□に入る整数の和について予想できることを説明する	統合的・発展的に考え、成り立つ事柄を見いだし、数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる		○			○	42.7	41.8	31.1	29.6
	7（2）	車型ロボットについて「速さが段階１から段階５まで、だんだん速くなるにつれて、１０ｃｍの位置から進んだ距離が長くなる傾向にある」と主張することができる理由を、５つの箱ひげ図を比較して説明する	複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる		○			○	25.0	25.9	32.2	29.4
	8（2）	１８Ｌの灯油を使いきるまでの「強」の場合と「弱」の場合のストーブの使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める方法を、式やグラフを用いて説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる		○			○	19.7	17.1	17.7	16.4
	9（1）	点Ｃを線分ＡＢ上にとり、線分ＡＢについて同じ側に正三角形ＰＡＣとＱＣＢをつくるとき、ＡＱ＝ＰＢであることを、三角形の合同を基にして証明する	筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる		○			○	29.2	25.8	33.3	33.6
	9（2）	点Ｃを線分ＡＢ上にとり、線分ＡＢについて同じ側に正三角形ＰＡＣとＱＣＢをつくるとき、∠ＡＱＣと∠ＢＰＣの大きさについていえることの説明として正しいものを選ぶ	事象を角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見いだすことができるかどうかをみる	○		○			30.0	26.7	3.7	4.5

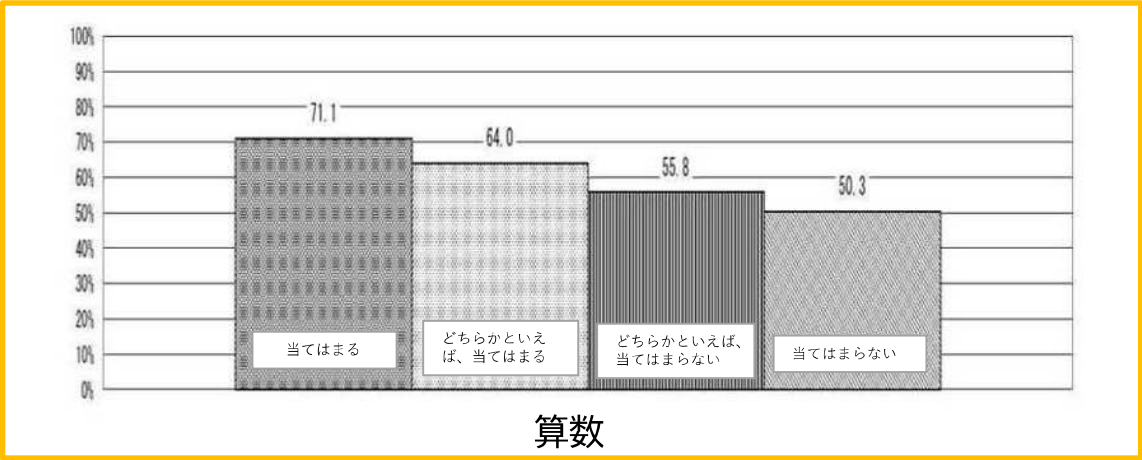
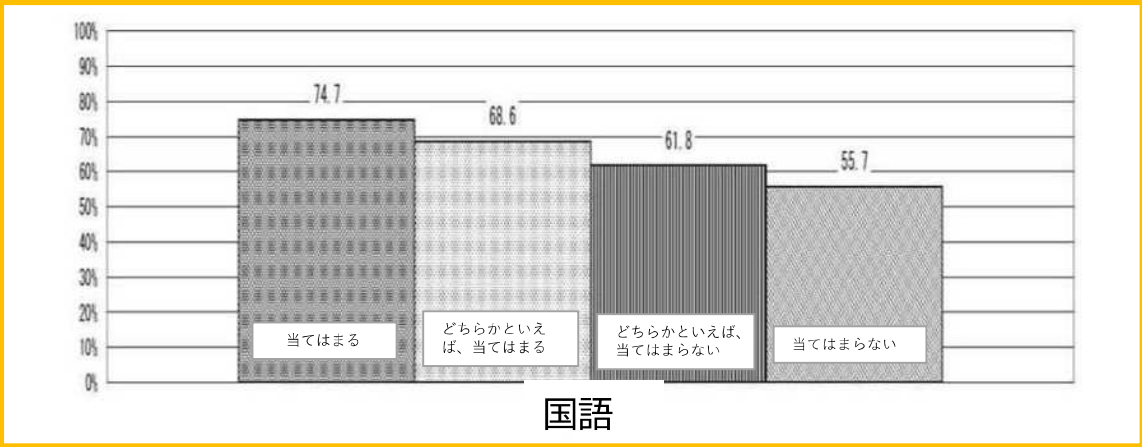
主体的・対話的で深い学び

質問調査結果（小学６年生　クロス集計【児童質問―教科】）

質問番号（３０）

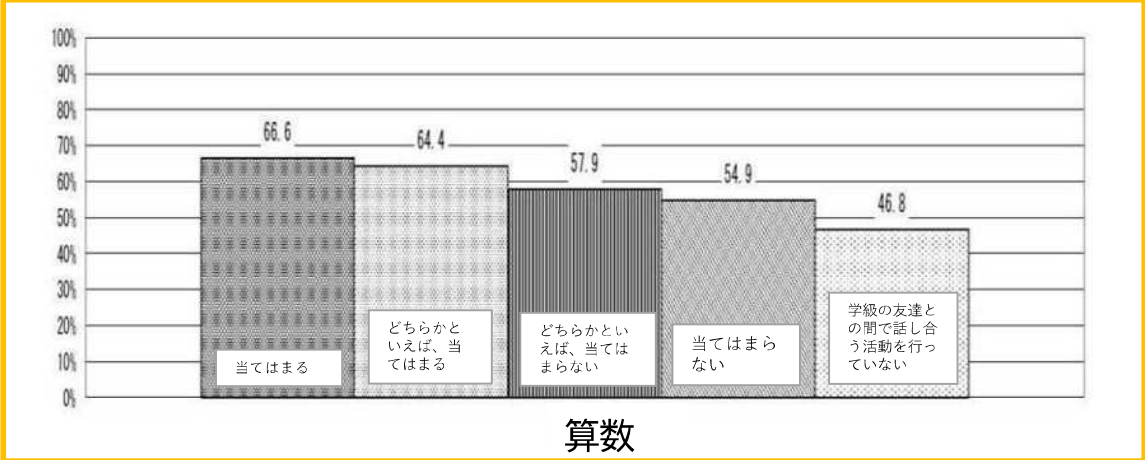
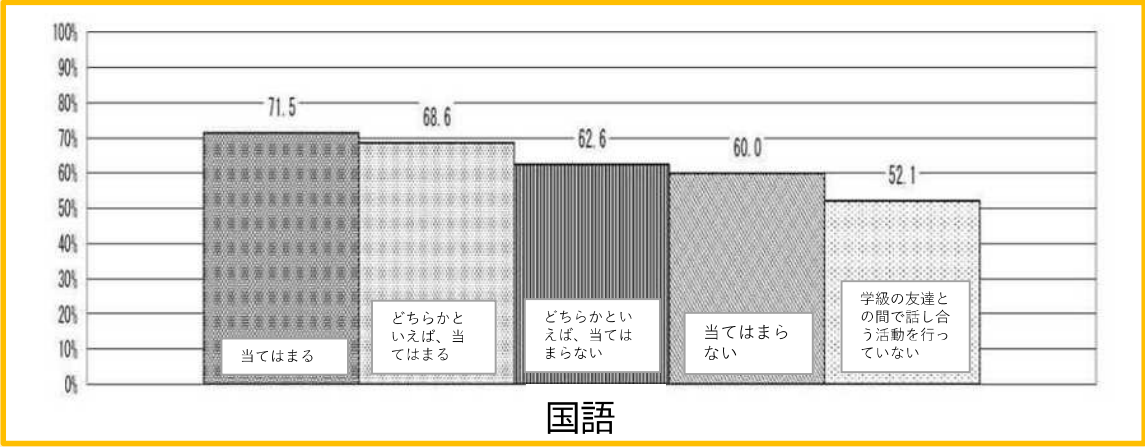
５年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

国語

算数

質問番号（３３）

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか

国語

算数

●主体的･対話的で深い学びに関する質問に肯定的に回答している児童は、正答率が高い傾向が見られる。

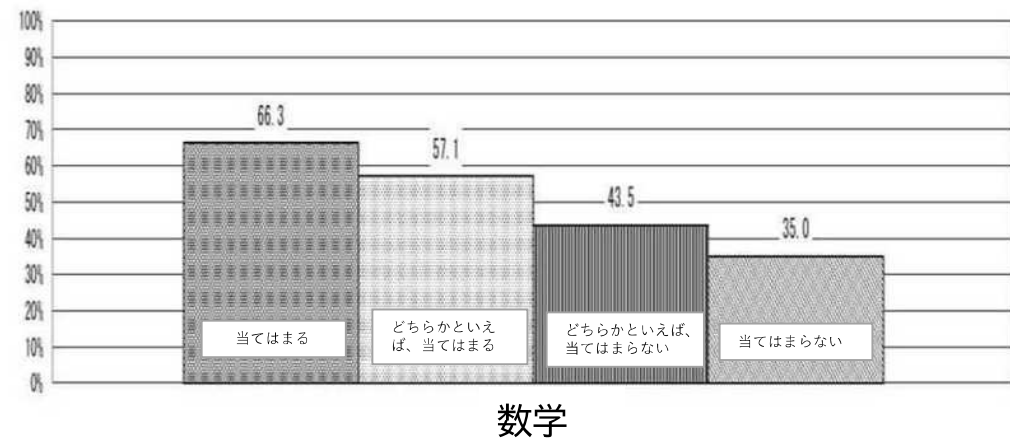
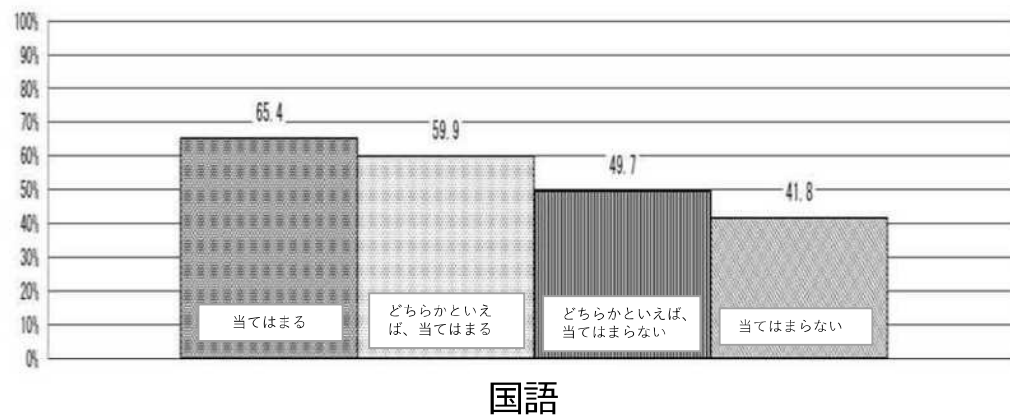
質問調査結果（中学３年生　クロス集計【児童質問―教科】）

主体的・対話的で深い学び

質問番号（３０）

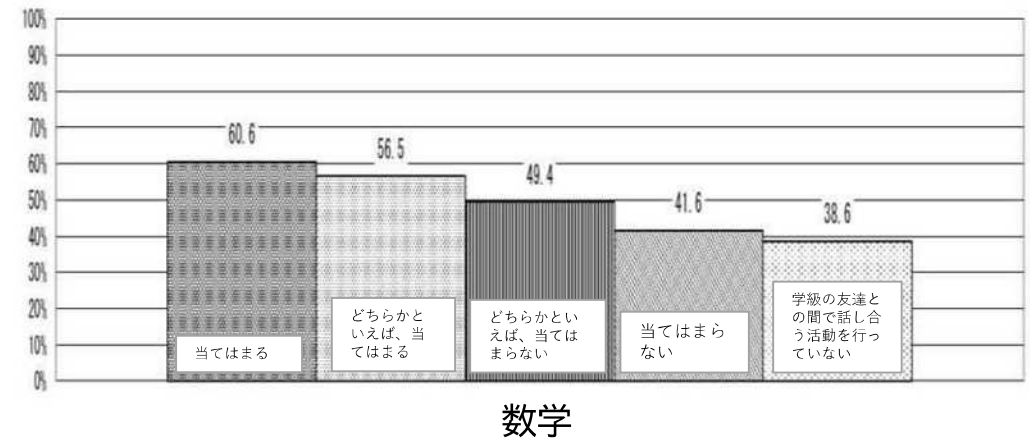
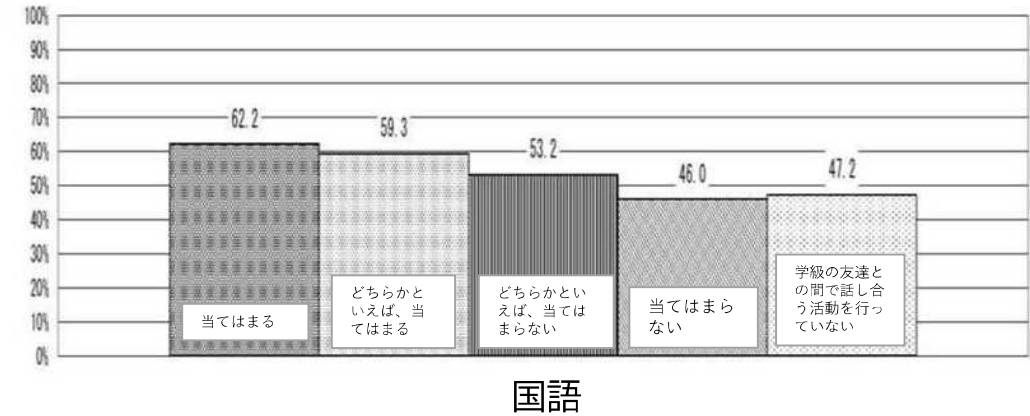
１、２年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

国語

数学

質問番号（３３）

学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか

国語

数学

●主体的･対話的で深い学びに関する質問に肯定的に回答している生徒は、正答率が高い傾向が見られる。

参考資料③

1/24(金)、1/30（木）開催の全市研修会についてお知らせします。
参加対象者を選任し、周知してください。

教委指第 1049 号
令和 6 年 12 月 20 日
教 科 指 導 課 長

校　長　各　位

「子供が主役のこれからの学び」に向けた全市研修会の開催について（一次案内）

「子供が主役のこれからの学び」を実現する授業に向けた取組を一層推進していただくことを目的として、その重要な考え方である「主体的・対話的で深い学び」と「個別最適な学びと協働的な学びの充実」をテーマとした全市研修会を、下記の要領で開催します。

本研修会の対象は、各校の管理職および授業推進のリーダーとなる先生方です。各校においては、本研修会を機に、今求められている授業観への理解を深めるとともに、新しい学力観にもとづく授業を着実に推進してください。

記

１．目的

第４期神戸市教育振興基本計画の基本政策１「子供が主役のこれからの学び」を実現する授業に向けて、その重要な考え方である「主体的・対話的で深い学び」及び「個別最適な学びと協働的な学びの充実」についての理解を深める。

２．日時及び対象・内容

第１回（学校運営編）

対象：管理職１名（校長または総括副校長・教頭）
日時：令和７年１月 24 日（金）　9:20～11:30（受付 9:00～　）
内容：①教育長講話
　　　②講演「今こそ授業を新しいステージへ～自分らしく自ら学ぶ子供を育む～」
　　　　講師：文部科学省初等中等教育局　田村　学 主任視学官

第２回（実践編）

対象：今後、各校で「子供が主役のこれからの学び」推進のリーダーとなる教員（１名）
日時：令和７年１月 30 日（木）15:00～17:00（受付 14:30～　）
内容：研究指定校の実践例をもとにした「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る授業を実践するためのポイント

３．会場　　神戸市総合教育センター　10 階　大ホール（第１回、第２回とも）

４．その他

・ 小学校、中学校、義務教育学校（前期課程・後期課程）は、第１回、第２回とも各校原則１名の参加をお願いします。
・ 小学校・中学校の内容が中心となります。高等学校、特別支援学校については、希望する場合にご参加ください（第１回のみ、または第２回のみの参加も可能です）。
・ 参加申込（KICS 研修説明会への登録）の方法は、二次案内（１月 10 日（金）頃に発出予定）でお知らせします。

《問い合わせ先》
教科指導課：橋場・藤本（Tel：984-0808・0807）

「子供が主役のこれからの学び」に向けた全市研修会

第1部　学校運営編

1月24日（金）
9:20～11:30
（受付開始：9:00）
総合教育センター
10階ホール

【対象】
管理職（各校1名）

【内容】
1. 福本教育長　講話
2. 講演
　文部科学省　初等中等教育局
　田村 学　主任視学官
3. 諸連絡

【講演題】
「今こそ授業を新しいステージへ　～自分らしく自ら学ぶ子供を育む」

講師
文部科学省　初等中等教育局
田村　学　主任視学官

新潟県公立学校教諭、上越教育大学附属小学校教官、柏崎市教育委員会指導主事、国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官、文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官、文部科学省初等中等教育局視学官、國學院大學人間開発学部教授を経て令和6年度より現職。主な著書「思考ツールの授業」（小学館）、「深い学び」（東洋館出版）、「深い学びを実現するカリキュラム・マネジメント」（文溪堂）、「学習評価」（東洋館）、「生活・総合資質・能力の育成と学習評価」（東洋館）、「探究モードへの挑戦」（人言洞）など。

第2部　実践編

1月30日（木）
15:00～17:00
（受付開始：14:30）
総合教育センター
10階ホール

【対象】
各校で「子供が主役のこれからの学び」推進のリーダーとなる教員（各校1名）

【内容】
『個別×協働』※を図った授業を実践するためのポイント（研究指定校の実践事例より）

※『個別×協働』…「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

※第1部・第2部ともに、動画によるオンデマンド配信を実施予定。

教科指導課
担当：橋場・藤本

参考資料④

別紙2

R６ 教員アンケート調査項目一覧

～「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けて～

回答する教員の基本情報

問１ 所属の学校を選択してください。(プルダウンで選択)

個別最適な学び【指導の個別化】
一定の目標を全ての子供が達成することを目指して、子供一人一人の特性や学習進度、学習到達度に応じて次の内容を授業で実現していますか。

問2 子供が学習手段(何を使って学ぶか)を選択できる場面を設定している。
(例.ノート、学習用パソコン、教科書、ワークシート等)

問3 子供が学習形態(どのように学ぶか)を選択できる場面を設定している。
(例.ひとりで考える、本やインターネット等で情報を調べる、ペアやグループで話し合う、教室内を移動して話し合う等)

問4 子供が自分にあったペースで学習を着実に進めることができる場面を設定している。

問5 子供一人一人の特性や学習進度などを丁寧に見取っている(評価している)。

個別最適な学び【学習の個性化】
子供一人一人が異なる目標に向けて、学習を広げ、深めるために、次の内容を授業で実現していますか。

問6 子供が学ぶことに価値を感じ、一人一人が異なる目標をもつことができる学習機会を提供している。

問7 子供が自らの興味・関心を生かして、探究的に学ぶ学習機会を提供している。

問8 子供が自ら得意なことを伸ばしたり、苦手なことを克服したりする学習機会を提供している。

協働的な学び
子供一人一人のよい点や可能性を生かし、多様な他者と協働しながら、異なる考え方を組み合わせ、よりよい学びを生み出すために、次の内容を授業で実現していますか。

問9 子供が、自分とは異なる考えや意見をもっている他者と関わることができるようにしている。

問10 子供が学習用パソコンを活用し、友達の考えを共有したり比べたりすることができるようにしている。

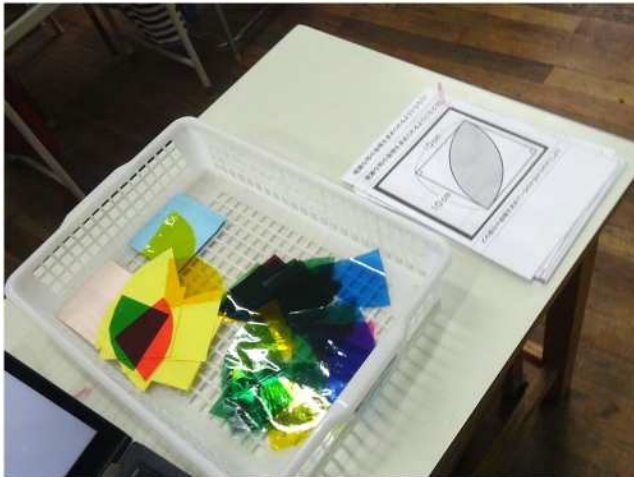
問11 子供がお互いの違いを認め、協力し合えるように、教育活動全体を通して学年・学級の集団づくりを進めている。

※問2～11 までは、「①よくしている ②どちらかといえばしている ③どちらかといえばしていない ④していない」の4つから選んで回答する。

協働的な学び
個別最適な学び【指導の個別化】
個別最適な学び【学習の個性化】
子供が学習手段（何を使って学ぶか）を選択できる場面を設定している。（例. ノート、学習用パソコン、教科書、ワークシート等）
子供が学習形態（どのように学ぶか）を選択できる場面を設定している。（例. ひとりで考える、本やインターネット等で情報を調べる、ペアやグループで話し合う、教室内を移動して話し合う等）
子供が自分にあったペースで学習を着実に進めることができる場面を設定している。
子供一人一人の特性や学習進度などを丁寧に見取っている（評価している）。
子供が学ぶことに価値を感じ、一人一人が異なる目標をもつことができる学習機会を提供している。
子供が自らの興味・関心を生かして、探究的に学ぶ学習機会を提供している。
子供が自ら得意なことを伸ばしたり、苦手なことを克服したりする学習機会を提供している。
子供が、自分とは異なる考えや意見をもっている他者と関わることができるようにしている。
子供が学習用パソコンを活用し、友達の考えを共有したり比べたりすることができるようにしている。
子供がお互いの違いを認め、協力し合えるように、教育活動全体を通して学年・学級の集団づくりを進めている。
2.85
2.9
3.02
3.06
2.98
3.05
3.18
3.29
2.91
2.87
3.02
2.96
3.11
3.02
3.39
3.44
2.74
2.87
3.36
3.42
全小回答
神戸市全体

協働的な学び
個別最適な学び
【指導の個別化】
個別最適な学び
【学習の個性化】
子供が学習手段（何を使って学ぶか）を選択できる場面を設定している。
（例. ノート、学習用パソコン、教科書、ワークシート等）
子供が学習形態（どのように学ぶか）を選択できる場面を設定している。
（例. ひとりで考える、本やインターネット等で情報を調べる、ペアやグループで話し合う、教室内を移動して話し合う等）
子供が自分にあったペースで学習を着実に進めることができる場面を設定している。
子供一人一人の特性や学習進度などを丁寧に見取っている（評価している）。
子供が学ぶことに価値を感じ、一人一人が異なる目標をもつことができる学習機会を提供している。
子供が自らの興味・関心を生かして、探究的に学ぶ学習機会を提供している。
子供が自ら得意なことを伸ばしたり、苦手なことを克服したりする学習機会を提供している。
子供が、自分とは異なる考えや意見をもっている他者と関わることができるようにしている。
子供が学習用パソコンを活用し、友達の考えを共有したり比べたりすることができるようにしている。
子供がお互いの違いを認め、協力し合えるように、教育活動全体を通して学年・学級の集団づくりを進めている。
2.85
2.77
3.02
2.97
2.98
2.86
3.18
2.99
2.87
2.8
2.96
2.85
3.02
2.88
3.39
3.31
2.74
2.53
3.36
3.26
全中回答
神戸市全体

向洋小学校 6年生【算数】「円の面積の求め方を考えよう」第4時

・子供が学習手段（何を使って学ぶか）を選択できる場面を設定している。
・子供が学習形態（どのように学ぶか）を選択できる場面を設定している。

複合図形を構成する正方形、直角三角形、おうぎ形の画用紙やセロハンを用意し、子供が必要に応じて課題解決のために活用できる環境を整えていた。

＜1人でじっくり考える＞
画用紙とセロハンを組み合わせて考えることで、複合図形の構成や重なりを理解するための手立てとなっていた。

＜友達と一緒に考える＞
画用紙を組み合わせた具体物を子供が自ら作って、それを活用しながら、説明し合うことで理解を深めていた。

神戸市教育委員会事務局

令和６年度　学力向上推進委員会　意見書

委員名：東良雅人

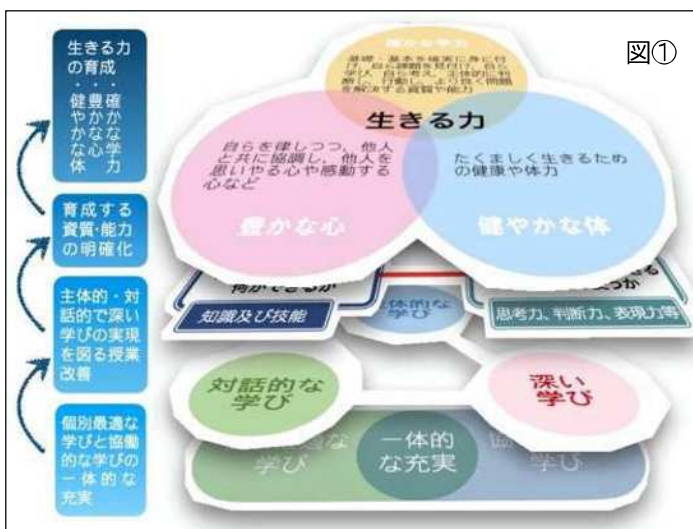
1. 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を推進するに当たって各教科等で重視すべきポイントについて

①図画工作科、美術科の学びとは

図画工作科、美術科における学習は、創造活動として子ども一人一人が自分の心情や考えを生き生きとイメージし、それを造形的に具体化する表現の活動と、表現されたものや自然の造形などを子ども一人一人が自分の目や体で直接捉え，よさや美しさなどを主体的に感じ取り作者の心情や美術文化などについて考えるなどして見方や感じ方を深める鑑賞の活動を通して学ぶという特質がある。

図画工作科や美術科の学びとは、子どもたち一人一人が定まった答えが用意されていない問いに向かい、自分の立てた問いや学習課題の解決に向けて、自分に合った活動を考えて学んだり、友達などとの協働的な活動を通して自身のよい点や可能性を生かし学んだりしながら、自分としての意味や価値をつくりだす課題解決的な学習そのものといえる。

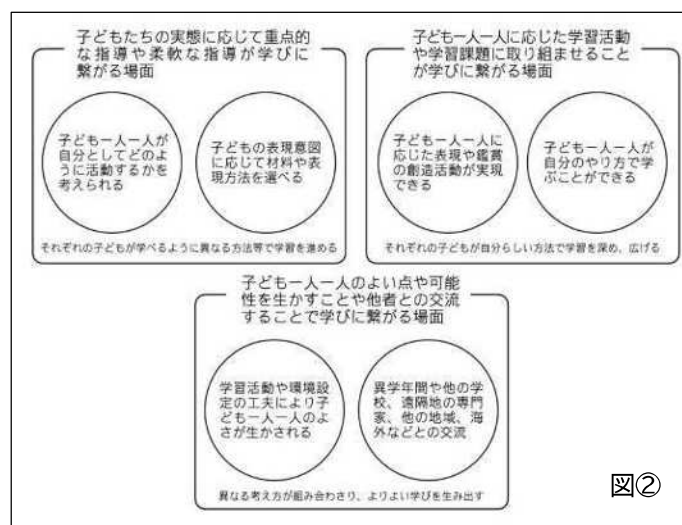
②「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を考える前に

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を推進するに当たっては、現行の学習指導要領で求められている「生きる力の育成」、「育成する資質・能力の明確化」、「主体的・対話的で深い学びの実現を図る授業改善」と、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」の関係についての認識（図①）を深め、各学校において「何のために一体的な充実をするのか」ということについての共通理解を図ることが大切である。また、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実が求められる背景には、学校が直面している課題の中でも特に子どもたちの多様化が起因していることを踏まえ、各校において学校教育目標等、育成する資質・能力を明確にした上で、自校における子ども一人一人の学びの実態を把握・共有することが求められる。

図①

③これまでの授業を振り返る

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実とは、必ずしも新しい指導方法を考えることや新たな取組を行うものではない。図画工作科や美術科においてはこれまでも、

一人一人の個性やよさを生かしたり、協働的に活動したりする授業づくりなど、個別最適な学びや協働的な学びを大切にしてきた経緯がある。こうしたことを踏まえた上で、まずは指導の個別化や学習の個性化、協働的な学びの視点（図②）からこれまで行ってきた授業を振り返り、現状を把握することが求められる。そしてすでに行ってきたものは更にその質を高め、出来ていなかったことは改めて授業改善に繋げていくことが大切である。また、これまでの授業を振り返る際には、単に「教師がどう指導したのか」という教師視点からだけではなく、「子どもがどう学んだのか」という学習者視点から振り返ることが重要である。

図②

④「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に繋がる「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

　②でも述べたとおり、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実は、それ自体が目的ではなく、多様な子どもたち一人一人に学びを実現するための「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善に繋がらなければならない。そのためには、題材を通して育成する資質・能力を明確にし、それらをよりよく育むために「自校の子ども一人一人が一番学べる方法を考える」ということを起点にして授業改善を行うことが大切である。（図③）また、一人一台端末が子どもたちの学びを支えるツールとして機能するように効果的な利活用を積極的に取り入れながら考えることも求められる。

図③

　授業づくりでは、「教師が教えることでよりよく学べること」と、「子ども自身の力でよりよく学べること」があることを指導者は強く意識し、指導計画の作成に当たっては、子どもの自主性の尊重と教師による指導との調和を踏まえた学習活動を考えることが求められる。また、そのためには「子どもの学びを見取る力」を教師自身が身に付ける必要があることから、教育委員会や教育研究会による学校や教師の支援が重要であり、特に若年教員を中心に「子どもの学びを見取る力」の育成に向けた研修会等を実施することも考えられる。

研究を行った先進的な取組を行っている地域の事例

① 子どもに委ねる学び（石川県加賀市）

② 単元内自由進度学習（愛知県東浦市緒川小学校）

単元内自由進度学習

自由進度学習の発想に基づく実践は、1980年代に既に行われていました。義務教育の在り方ワーキンググループの主査を務める奈須正裕氏は、「個別化・個性化教育の代表的な事例」として、愛知県東浦町立緒川小学校の1980～1990年代の実践とその効果検証の事例を挙げています。緒川小学校の「単元内自由進度学習」の実践は、単元の学習を子供が自立的に学んでいくことを目指しています。

教師は、学習のはじめに単元のねらい、時間数、標準的な学習の流れ、活用できる学習材や機会を提示します。子どもは、それらをもとに自分の興味や学習方法・スタイルに応じた学びをどう進めるか学習計画を立てて、個々に進めていくというものです。その過程では、同じ内容や方法を扱っている友達との交流、協働的な関わりも必要に応じて行われます。

※小学館 WEB サイト『みんなの教育技術』（https://kyoiku.sho.jp/239588/）より

③ 情報活用能力の育成（愛知県春日井市藤山台中学校）

春日井市立藤山台中学校 生成AIパイロット校

学校種	中学校
学級数	9
重点的に取り組むテーマ	「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実 教育課程全体を通した情報活用能力の育成
生成AIに関する取組内容	生成AIの教育活動での活用 生成AIの校務における活用
関連リンク	藤山台中学校のHP

④ 40 分授業午前５時間制（東京都目黒区）

中学校数学

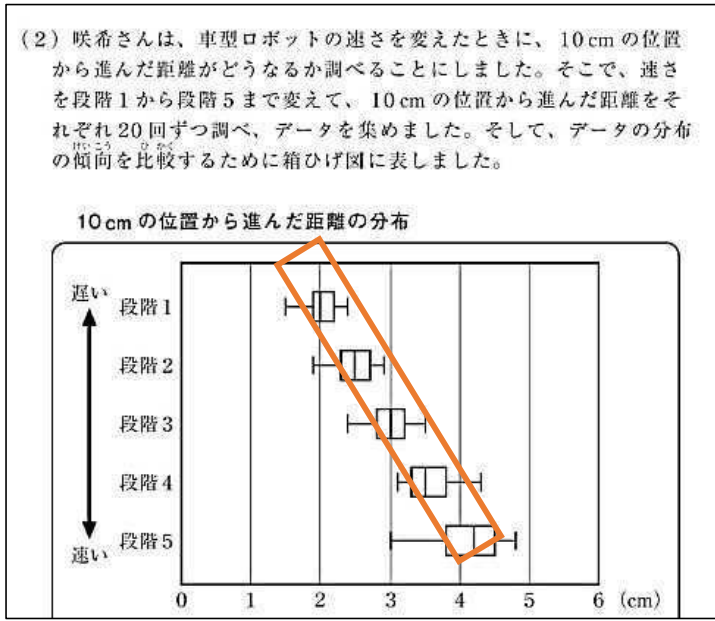
教科に関する調査結果

課題

箱ひげ図の箱（第１四分位数と第３四分位数）をもとに、データの分布の特徴を傾向を比較して読み取ることができていない

具体の問題　R6全国学調７(2)

車型ロボットの速さと制動距離の関係を、箱ひげ図から読み取ったデータの傾向をもとに説明する問題

（２）咲希さんは、車型ロボットの速さを変えたときに、10 cm の位置から進んだ距離がどうなるか調べることにしました。そこで、速さを段階１から段階５まで変えて、10 cm の位置から進んだ距離をそれぞれ 20 回ずつ調べ、データを集めました。そして、データの分布の傾向を比較するために箱ひげ図に表しました。

「令和6年度全国学力・学習状況調査」（文部科学省）
（https://www.nier.go.jp/24chousa/pdf/24mondai_chuu_suugaku.pdf）を加工して作成

【正答】　　正答率　25.0%（全国25.9%）

- 「箱ひげ図の箱がだんだんと右側にずれていっている」
- 「第1四分位数と第3四分位数がだんだんと大きくなっている」

【不十分な正答】

- 最大値や中央値など、四分位数のいずれかの値がだんだん大きくなっていることを書いている

【誤答】

- 箱ひげ図の箱の長さやひげの長さについて書いている
- 箱ひげ図から読み取らずに何か書いている
- 無回答率　32.2%（全国29.0%）

・この問題から分かる特徴、課題

- グラフから特徴を見出し説明する力が不十分

- 「箱」の中に全体のデータの半分が入っていることの理解が不十分
- 箱ひげ図全体（ひげの中）だと外れ値の影響を受けることの理解が不十分

中学校数学

授業アイデア例

中2・データの活用領域
（思考力・判断力・表現力等の育成）

身近な事象の変化の傾向を箱ひげ図から読み取り、考えや表現を他者と共有しながらスライドにまとめる数学的活動

問題発見
学習した「箱ひげ図を使ったデータの分布の表し方」を、どのようなデータの分析に利用できるか？

課題設定
2024年の夏は暑かった。神戸市の2024年の6月から9月の毎日の平均気温の移り変わりを、**箱ひげ図を使って**分析し、スライドにまとめてみよう。

焦点化
箱ひげ図の「箱」の意味は何だっただろう？
「箱」の大きさの違いから何が読み取れるだろう？
目標 見通し
変化の傾向を箱ひげ図の箱に着目して説明できる

課題解決（スライド作成）

子どもが主体的に学ぶ場面

教科書やノートで確かめる
他の人のスライドを途中参照・他者参照
友達や先生に聞く
インターネットで調べる

- 箱ひげ図の「箱」に着目してデータの特徴を読み取っているか？
- 人に伝わる表現で根拠を明確にして説明しようとしているか？

他の人のスライドを途中参照・他者参照
ディスカッション

結果
●●さんの作ったスライドは、箱ひげ図の箱に着目した根拠が、数学の言葉を使って分かりやすく書かれていて良いですね。

統合・発展
振り返り
- 色々な読みとりができるんだな
- 他にも分かることはないかな？

気象庁のWEBサイトからデータを取得しEXCELで箱ひげ図を作成

手本となる説明の共有
（例）◎「6月、7月、8月とだんだん平均気温が上がっていっているが、特に8月は箱ひげ図の箱の幅が狭く、平均気温が30°C以上の暑い日が続いた。
（例）○「箱ひげ図の箱が、6月、７月、8月とだんだん上にあがっていき、9月になると少し下がっていることから、暑さのピークは８月だった。」

他にデータから分かること
（例）「7月の平均気温の範囲と四分位範囲がどちらも一番大きいことから、1か月の間の平均気温の上がり方が一番大きかったのは７月である。

音楽

【音楽】子供が主役の授業イメージ　～個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実～

個別最適な学び
学習の個性化

子供が　学びを振り返り、次につながる既知・既習を獲得する

育成する資質・能力
（題材で言えば「目標」）

協　働　的　な　学　び　の　場　面

表現の工夫（A表現）や
楽曲の味わい（B鑑賞）
の共有

個別最適な学び
学習の個性化

子供が　自身の目標を考える
何を使って学ぶかを決める

協働的な
学びの場面

中間発表による
考えの共有

個別最適な学び
指導の個別化

必要なところ（個別）に重点的な支援

一斉指導
の場面

子供が　楽曲に出会う（感性が働く）

子供が　学習内容や課題を自分事として
具体的に捉える

協働的な
学びの場面

個別最適な学び
学習の個性化

子供が　課題解決に必要な知識や技能
（既知・既習を含む）を学ぶ

個別最適な学び
指導の個別化

子供の実態に即して幅広く準備（教材・教具・ヒント等）

【音楽】子供が主役の授業イメージ　～個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実～

個別最適な学び
学習の個性化

子供が　学びを振り返り、次につながる既知・既習を獲得する

※自分の学びを把握し、最終的に「学び方」が身に付くような振り返りを設定します。
※子供自身が学びを活用できる題材を設定するようにします。

育成する資質・能力
（題材で言えば「目標」）

※すべての学びは、「音や音楽と関わらせる学習活動」を通して、「音楽的な見方・考え方」を働かせながら行われます。

協　働　的　な　学　び　の　場　面

表現の工夫（A表現）や
楽曲の味わい(B鑑賞)の共有

※言語活動だけでなく音と関わらせることが必須です。

※音楽の全体像を視覚化する等の工夫や、子供に学習の見通しをもたせることが大切です。

協働的な
学びの場面

中間発表による
考えの共有

個別最適な学び
指導の個別化

必要なところ（個別）に重点的な支援

個別最適な学び
学習の個性化

子供が　自身の目標を考える
何を使って学ぶかを決める

※子供の発言や演奏などに適切に問い返しをすることで学びが焦点化します。

※学びが孤立化しないよう、適宜協働的な学びの場面を設定します。

一斉指導
の場面

子供が　楽曲に出会う（感性が働く）

協働的な
学びの場面

個別最適な学び
学習の個性化

※一斉指導の場面にも「個の学び」があります。

子供が　学習内容や課題に興味をもち、
自分事として具体的に捉える

子供が　課題解決に必要な知識や技能
（既知・既習を含む）を学ぶ

※「知識及び技能の習得」⇔「思考・判断」のように、行ったり来たりすることもあります。

個別最適な学び
指導の個別化

子供の個性や実態に即して幅広く準備しておく（教材・教具・ヒント等）